

特別インタビュー

「自分自身がまちづくりの一翼を担っている」と、全職員が誇りを持てるような組織づくりに取り組んでいます。

医療法人陽心会企画戦略室室長
大道中央病院事務長

肥後 佐起子 (ひご・さきこ)



高齢者の生活背景に 対応する陽心会グループ

― 肥後事務長のこれまでの経歴をお聞かせください。

肥後 私は大学卒業後、県内の総合病院に入職しました。医事課を経て診療情報管理室で診療分析などに従事し、それから法人本部の経営企画課次長として予算建てや事業計画などに携わりました。2020年には豊見城市と糸満市にある2つの病院を3日がかりで同時に移転するプロジェクトに関わり、新型コロナウイルスと闘いながら無事に遂行できたことはとてもいい経験になりました。

豊見城市与根に新築移転した病院施設で昨年3月まで事務長を務めていましたが、陽心会の高良健理事長から直接お誘いを受け、今年4月からこちらでお世話になることになりました。

― 現在の業務内容は。

肥後 私は医療に関しては20数年の経験がありますので、陽心会の医療に関する部分はすぐに理解できました。ただ法人の理念である「自宅の病床化」を実現するために株式会社や有会社などの法人も有していますので、それぞれの事業所が医療とどう関わっているのかを理解するのに少し時間がか

かりました。全体の相関図を頭に入れるのが私の最初のハードルで、全体の流れが理解できてからは、戦略の提案や私が日頃交流している企業の手法などを高良理事長にお伝えするようにしています。高良理事長はいろいろな構想をお持ちですので、それを実現するのが私の役割なのかなと思っています。

― 陽心会の業務で興味を引かれた部分はありますか。

肥後 踏み込んでいる取り組みだなと感じたのが「自宅に慢性期の医療を持ち込む」という発想です。すぐく面白いと感じました。医療側は自前の施設を持っていますから、どうしてもそこに来てもらうという発想が原則になります。慢性期機能を自宅に持ち込むという発想は、なかなか他では真似できないところかなと。陽心会グループには、ホールディングスとして、さまざまな生活背景を持つ地域の高齢者それぞれに対応できるような施設がありますので、とても興味深いと思いました。

まちづくりの核となる 大道中央病院

― 今お話のあった自宅の病床化について。

肥後 厚生労働省が2016年に

た役割だと考えています。

次代につないでいくための 体制づくり

― リハビリテーションに関する研究と教育・治療の一体化を進めているとお聞きしています。

肥後 そうですね。脳卒中や心筋梗塞、骨折など急性期の治療を基幹病院で終えた方は、それぞれの地域に戻ってリハビリテーションを行います。すべての病気が完治するわけではありませんので、治療やリハビリを続けながら仕事や日常生活、お孫さんや親御さんの世話などを続けていく方も多くいらつしやいます。大道中央病院は地域のまちづくりの核となる病院として多くの患者さんをサポートしていますので、職員の皆さんが「まちづくりの中心に自分がいる」という自覚を感じられるようにしていきたいと思っています。

― そのためには職場研修も必要になつてきますね。

肥後 リハビリ病院として、まずは理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などセラピストのさらなるレベルアップを図ることが重要です。そのために全国レベルの専門家の先生を招いて学んでもらうことも考えています。セラピストの質が全国レベルになるということは、結果的に患者さんの利益につながります。リハビリ病院としての使命を担っている以上はそれを継続していく責任がありますし、地域の高齢者が元気に歳を重ねていくまちづくりは私たちに課せられ

るべきです。

― 今後の抱負を。

肥後 実は前職からの継続になるのですが、沖縄県経営者協会の女性リーダー部会で幹事を務めています。部会ではさまざまな業種の女性リーダーと交流していますの

で、これまで培ってきたネットワークや情報を有効に活用していきたいと考えています。普段からお世話になっているパートナー企業も多くありますので、そのネットワーク内で持ちつ持たれつの関係を築いていきたいですね。

高良理事長は医療関係のみならず県内外の各界に幅広い人脈や情報をお持ちです。その人脈や情報を持続可能なものにするためには、私たち職員一人ひとりがもっとしっかりとしなければいけません。

実は先日、全職員を対象とした配信型講義の受講を高良理事長に提案し、承認いただきました。例えば今月は医療倫理、来月は医療安全、次は感染など毎月テーマごとに受講してテストを受けてもらいます。高良理事長が30年以上掛けつくり上げた組織ですから、それを次代につないでいくための体制づくりが私の使命なのかなと考えています。「自分自身がまちづくりの一翼を担っている」と、全職員が誇りを持てるような組織づくりに取り組んでいきたいと思っています。

― 本日はお忙しい中ありがとうございます。

肥後 こちらこそありがとうございます。

医療法人 陽心会グループ

医療法人 陽心会

社会福祉法人 陽風会

有限会社 ヘルスサポート

理事長 高良 健

大道中央病院
那覇市安里1-1-37 TEL.098-869-0005(代)
リハビリテーション部 TEL.098-869-0050
メディカルプラザ大道中央
那覇市字大道123 TEL.098-886-0007(代)
一部内線部門 TEL.098-886-0115
低床療養部 TEL.098-886-5141
聴覚療養部 TEL.098-886-0115
人工透析部門 TEL.098-886-5151
施設部門 TEL.098-886-5678
介護老人保健施設 やすき里
那覇市安里3-1-57 TEL.098-869-0030
グループホーム たかまの里
那覇市字大道94-3 TEL.098-885-0018
グループホーム 大道が丘
那覇市字大道94-3 TEL.098-885-0036

小規模多機能型ホーム 三原
那覇市三原2-8-10 TEL.098-840-0027
訪問看護ステーション 陽心会
那覇市東区64-9-1F TEL.098-860-1270
那覇市地域包括支援センター 若狭
那覇市東区2-1-10 TEL.098-863-1165
那覇市地域包括支援センター 新部心
那覇市東区1-6-15 TEL.098-941-2252
(訪問介護事業所)
那覇市字大道128 TEL.098-885-0033
ケアハウス 常夏島
那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0036
小規模多機能型ホーム 牧志
那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0025
有料老人ホーム 星の里
那覇市安里1-1-17 TEL.098-917-1262
特別養護老人ホーム 前島
那覇市前島2-18-17 TEL.098-694-8039

那覇市天吉老人福祉センター
那覇市天吉2-14 TEL.098-886-3510
那覇市豊川老人福祉センター
那覇市豊川12-3-11 TEL.098-853-1139
那覇市比老人福祉の家
那覇市比2-14-1 TEL.098-864-0580
有料老人ホーム 三原の家
那覇市三原1-26-40 TEL.098-832-5981
有料老人ホーム 牧志
那覇市東区2-9-43 TEL.098-862-1331
有料老人ホーム 西町
那覇市西1-20-19 TEL.098-863-7884
デイサービスセンター リバーサイド
那覇市安里1-1-18-3F TEL.098-862-1501

有料老人ホーム 健寿の杜
那覇市若狭3-1-47 TEL.098-941-0070
有料老人ホーム 松風邸
那覇市若狭2-5-12 TEL.098-863-3320
小規模多機能型ホーム 若狭
那覇市若狭2-10-14 TEL.098-869-8557
グループホーム 若狭の家
那覇市若狭2-10-10 TEL.098-951-0550
那覇市若狭2-10-10 TEL.098-951-0551
在宅総合ケアセンター 大道
那覇市安里381-1 TEL.098-885-0030
那覇市地域包括支援センター かなぐく
那覇市東区1-21-1 TEL.098-852-0777
福祉用具貸与・販売事業所
那覇市字大道128 TEL.098-885-0100

発表した「地域包括ケア研究会報告書」では、地域包括ケアシステムについて「団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます」とあります。ここの「住み慣れた地域」とは「概ね30分以内に必要なおサービスが提供される日常生活圏域」で、具体的には中学校区になりますが、それを具現化して実行に移している組織はなかなかないと思います。

陽心会グループは約30年前から「自宅の病床化」をうたい、今という地域包括ケアシステムの実現に取り組んでいます。医療のみならず生活支援、介護予防を含めすべて手掛けていますので、医療と福祉を絡めた「まちづくり」という部分においても非常に興味深いです。私は地域のすべての方を取りこぼさないようにしっかりと支えていく仕組みが大切だと思っていますので、この取り組みを全職員と共有していきたいですね。

― まちづくりには自宅の病床化が有効ということですか。